



うっちゃれ、シテイライフ。

黒澤徹



地域おこし協力隊として委嘱されて1年が経ちました（残り2年）。担当は有害鳥獣対策ですが、地域振興につながる被害対策の支援や関係人口創出のためのツリーズム事業支援に関わらせていただいています。引き続きよろしくお願ひします。

移住者としての近況ですが現在、地域の皆さまといろいろな面で関わらせていただき鋸南町に少しずつ自分の居場所を作っている最中です。船橋市からの移住でしたが、鋸南町での生活に不便も不満もこれといってありません。

仕事を終え同僚とふらつと飲みに行くという一年前までの電車通勤のサラリーマンには日常的な行動が、鋸南町では結構難しいというのは痛感しました（半面家でお酒を嗜む機会が増えました）。仕事後に自宅以外の喫茶店などで読書や友人とおしゃべり等をする空間がないのが少々残念。

テレビを見る習慣がないので夜はもっぱら読書。神戸に転勤中の妻とはほぼ毎日1時間は電話で話しています。就寝が早いのと有害獣捕獲活動を早朝行う必要もあり、自然と起床は早くなりました。日々、身体を使った作業も増えたので、以前わざわざフィットネスクラブで筋肉

トレーニングしていた習慣（実は仕事のストレス発散）も不要になりました。満員電車通勤中に新聞を読んだり、読書をしたりという生活でしたが、今は車での出勤なのでそういう時間はなくなりました。残業は概ね減りましたので仕事以外のことにも十分時間を割くことができるようになりました。それでもまだやりたいことはありますが。

インターネット環境が整い都心から離れても仕事はできる、と言われます。確かにそういう面はありますが、以前と比べて取引先等と気楽に直接会えなくなっただとは感じます。メールやラインで大抵の情報共有は可能と言われますが、会って相談することの重要性は今も感じています。

なので、最近はこちらとした打ち合わせでも高速バスで東京に向くようにしています。バスでの移動時間も自らが運転するのと違ってなかなか生産性が高かったりします（居眠りしてしまうことも多いですが）。たまに同じ房総エリアで2拠点生活をしている事業家と一緒にバスに乗り合わせたりして、急遽バス内ミーティングになったりしています（他の乗客がいけないことが前提ですが）。

憧れの地方暮らしですが、まだまだ未知の楽しみがありそうで楽しみです。

、、、とこんな感じです。
第1号目なんで硬い文章になってしまいましたが徐々にゆるくなっていく、、、かもです（笑）
毎月発行しますのでぜひ見てください。
見かけたら声をかけてもらえると嬉しいです！
これからもよろしくお願ひします！





町民の皆様こんにちは。1月の町報でご挨拶させていただいた地域おこし協力隊の室井翼です。この度、こういったかわら版をつくったのは「自分が普段どんな活動をしているのか知ってもらいたい」「もっと町のことを知りたい」という思いからです。自分たち移住者から見た鋸南町の魅力や生活する中で気づいたこと考えたことなど色々掲載していこうと思っっています。ブログのペーパー版だと思って見ていただけだと思います。清水、黒澤、室井（たまに伊藤）が執筆します。

鋸南町のことは以前から知っていました。大学生のとき、鋸山に訪れ、そのついでにバスで長狭街道を通った時、保田の里山の風景に心を奪われました。山と山の間には民家と田んぼが点在し、日本の原風景ともいえる景色が広がっていました。郷愁というものは自分が生まれ育ったところじゃなくても感じるんだなあと思いました。初めて訪れたのになんとか懐かし

くてやさしい空気に包まれたのを今でも覚えています。それから何度か訪れるうちに、ここに住んで写真を撮り続けたいと思うようになり、移住を決めました。今、移住して二か月が経ちました。今までの自分にとっては特別だった非日常的な瞬間が、風景が、徐々に日常に溶け込んでいくんだと思うと、とても嬉しくこの景色を大事にしようと思っっていました。



室井翼 Muroi Tsubasa

平成6年生まれ。神奈川県出身。横浜の大学を卒業後自動車ディーラーに就職。鋸南町の自然が醸し出す空気に魅了されて移住を決めた。昨年の12月から移住担当の地域おこし協力隊として活動を開始。写真を撮ることとキャンプが趣味。

室井翼 インスタグラム



こんな活動をしています！

「きよなん染染めの会」の魅力を町外の人にも伝えたいと思い、動画を作成しました。



みなさん、こんにちは！観光のPR担当の地域おこし協力隊の清水多佳子です！協力隊として着任して4か月が経過しました。東京ではできなかつたことを毎日体験できること、とても楽しく感じています。

桜の枝から抽出される液体が酸化されるとどんどん濃いピンク色になっていく過程が面白かったです。



移住コラム①

東京生まれ、東京育ち。東京にある女子大学を卒業したあと、新聞社や雑誌社で記事を書く仕事をしていました。出張で地方に行くことはあっても、基本的には東京で仕事をしており、昨年の今ごろは、まさか自分が東京以外の場所に住むとは思っていませんでした。そんな私がどうして鋸南町に来たの？と思っっている人結構、いるのではないのでしょうか。

本当を言うと…、私田舎って苦手でした。車がないと買い物に行けないし大きな映画館も公園もない。そんなとき、たまたま参加した地域おこし協力隊のイベントで、ふと思っただけです。「田舎暮らしって、もしかして面白いんじゃないの？」と。生きる場所は東京だけじゃない。生きる場所はどこでもいい。そんな当たり前のことに気づきました。実はそのころ、ちょうど東京で生き方に行き詰まっていたときでした。安定し

「わたし、このままでいいのかな？」

ていると思っっていた職場が経営難になり、自分はこの先、このままなんとなく生きていていいのだろうか？と思っっていたのです。とはいいながら、東京生まれ、東京育ちの女性が単身で移住するのって、結構珍しいんじゃないかと思っっています。でも、私は鋸南にきてよかったと感じています。新しい場所、新しい人間関係、新しい仕事と出会うことができたのですから。今、世の中では「働き方改革」という言葉が流行していますが、私は「生き方改革」って言葉があってもいいんじゃないかと思っっています。いろんな生き方があると思います。今、そんなふうに考えています。

清水多佳子プロフィール
ローカルライフに興味を抱き、2018年9月から地域おこし協力隊。鋸南町の海を見ながら通勤するのが日々の楽しみ。好きな食べ物は、魚料理。嫌いな食べ物は、特になし。お酒は少々です。

移住を決めた理由

鋸南町のことは以前から知っていました。大学生のとき、鋸山に訪れ、そのついでにバスで長狭街道を通った時、保田の里山の風景に心を奪われました。山と山の間には民家と田んぼが点在し、日本の原風景ともいえる景色が広がっていました。郷愁というものは自分が生まれ育ったところじゃなくても感じるんだなあと思いました。初めて訪れたのになんとか懐かし

くてやさしい空気に包まれたのを今でも覚えています。それから何度か訪れるうちに、ここに住んで写真を撮り続けたいと思うようになり、移住を決めました。今、移住して二か月が経ちました。今までの自分にとっては特別だった非日常的な瞬間が、風景が、徐々に日常に溶け込んでいくんだと思うと、とても嬉しくこの景色を大事にしようと思っっていました。